

バックハンドで攻める木村



初優勝

女子シングルス 木村香純

全日本学生選抜卓球選手権 11月23〜24日、埼玉県・所沢市 民体育館

全日本大学総合選手権 個人の部ベスト16以上の選手と留学生、推薦選手が参戦するハイレベルな大会。女子シングルスで木村香純(経営2・四天王寺高)が見事、初優勝を飾った。

強豪次々に撃破

木村は、強豪を圧倒する戦いぶりをみせた。得意のドライブを武器に予選リーグを全勝で通過すると、勢いそのままに決勝トーナメントも勝ち進んでいく。準々決勝で、大学総合選手権で敗れた奥下茜里選手(日大)にリベンジを果たすと、準決勝は鎌田那美選手(早大)をストレートで撃破した。

「だと思っ」と喜びを表した。また、1月の全日本選手権に向けて「今大会の結果を糧にして、ベスト16以上を目指して頑張りたい」と意気込みを語った。

全日本の出場権獲得

全日本大学ボウリング選手権 11月16〜18日、京都府・キョーイチボウル宇治



6位入賞を喜ぶ専大チーム

団体で6位に入賞し、3月に行われる全日本選手権に代表権を得た。

「自分のプレーに集中してゲームを進めた。1日目終了時点で個人10位だったので手応えを感じていた。ボウリングはミスをしなことが非常に大事な競技。安定したプレーを心掛けた」と大会を振り返った。

1勝差で4位 関東大学アイスホッケーリーグ戦(ディビジョンIグループB) 12月1日時点で、西東京市・ダイドードリンコアイスアリーナほかグループA昇格を目指す

昨年上回る5位

11月の4試合で二つの白星を挙げ、3勝4敗の勝ち点16でリーグ戦を終えた。大東大と並んだが、直接対戦で敗れてしまったため5位となり、昨年以上回る成績で1部に残留した。

リーグ戦を振り返り、郡司健吾主将(経営4・日川高)は、「W杯による中断期間があり、厳しいスケジュールだった。その中でも強豪校に引けを取らないレベルまで、ディフェンスが成長した。かなわなかった全国大学選手権出場という目標を、来年こそ達成してくれ」と期待している。

「誇り」を持って最後まで戦ってくれた」と感謝を語った。(高田康平・経営3) 写真：真も

来季巻き返しを

関東大学サッカーリーグ戦 11月24日、横濱市・県立保土ヶ谷公園サッカー場ほか

4月から12チームが熱戦を繰り広げてきたリーグ戦。専大は7勝2分け13敗の勝ち点23で、不完全燃焼の10位に終わった。

残留争いに巻き込まれた中で迎えた20節の順大戦は氣田亮真(文4・千葉敬愛高)の2ゴールなど、攻撃陣が奮起し4-0で勝利した。この勝ち点が決め手となり、1部に踏みとどまることができた。

高崎康嗣監督は、「良い時と悪い時が明確に出たシーズンだった」と振り返った。この悔しさを糧に、来季の巻き返しを誓う。(一家駿介・文2)

一体感で部員導く

弓道部主将 鈴木桃子(経営4・翔陽高)



「運動部に入りたかったから」。鈴木桃子主将(経営4・翔陽高)が高校で弓道を始めたのはそんな理由だった。しかし、高校では、矢的的に当選して活躍する人となりを支える人。全員が同じ方向を向くのは簡単なことではな

たのが遅かった。焦り、同じ目標に向かうたはあったが「形をしっかりとめ、少し気持ちが違ったりきれいにしてから」となど思った選手には積極的な意志を持ち、努力を的に話し掛けに行った。続けた。目標を決め、そのかきもあつちチームにたつかり達成するところ。一体感が生まれた。鈴木主将の強さの秘訣が、出場しない選手も人ごとはなく応援できること。大学では、高校と違う。それが1部引き締まった雰囲気。復帰を果たした大きな原動力となり、それが「戸惑いを隠せなかつた」。それでも1年次から選手として活躍した。(男神愛・商1)

フリー86kg級 松雪が3位

全日本大学レスリング選手権 11月9、10日、鹿児島県・日置市吹上浜公園体育館

フリー86kg級で松雪泰成主将(商4・星城高)が写真2が3位に入賞。東京オリンピックの日本代表選考会を兼ねた全日本選手権(12月19〜22日)の

4人が優勝

東日本学生秋季レスリング選手権・新人戦 11月25〜27日、世田谷区・駒沢屋内球技場

選手権ではフリー61kg級で藤波諒太郎(文4・金沢北陵高)、65kg級で

出場権を獲得した。今大会では、準々決勝で石黒隼士選手(日大)に1-3で惜敗したが、3-8位

を決定する順位決定トーナメントは1ポイントも失わない盤石の戦いで制した。「全日本選手権では優勝を狙う」と強く意気込んだ。(岡本真凛・経営2)

選手権ではフリー61kg級で藤波諒太郎(文4・金沢北陵高)、65kg級で

佐々木虎次郎(商3・中津商高)が優勝。新人戦でもフリー74kg級で丸目哲郎(経済2・星城高)、グレコ60kg級で河名真偉斗(経済2・三次高)が優勝。4人が全日本選手権の出場権を得た。藤波が選手権フリーの最優秀選手賞、河名が新人戦グレコの敢闘賞に選ばれた。(岡本)

4年次生に向けて村田互監督は、「4年間、お



トライに向けて走る郡司主将(11月30日、中大戦)

した6勝4敗の4位。1位の青学大とは勝点3差と1勝の重みを痛感する結果となった。

GKの小笠原弥(法3・八戸工大一高)がベスト6に選ばれるなど、収穫もあった。

須藤水晶副将(法4・北海道栄高)は、「優勝のチャンスはあったので、本当に悔しい。12月25日に始まる日本学生永上競技選手権が今のチームで戦える最後の大会なので、一戦一戦全力で挑みたい」と話した。(池村友輔・文2)